

令和6年度 日本大学文理学部個人研究費 研究実績報告書

所属・資格 総合文化研究室・特任教授

申請者氏名 石川 晃司

|   |                     |  |
|---|---------------------|--|
| 研究課題  |                     | ①吉本隆明の思想研究 ②アジア地域における政治社会発展の研究   |
| 報告の概要   | 研究目的<br>および<br>研究概要 | ① 吉本隆明の思想研究。 昨年度に引き続き、これまでに発表した論文を整理し、さらに不足部分(吉本思想を世界思想や戦後日本思想のなかに位置づける論文)を加筆のうえ、一書に纏め公刊し、吉本隆明研究の向上に資することが目的である。ほぼ完成に近づいているので、この研究を最優先したい。<br>② アジア地域における政治社会発展の研究。 アジア地域(とくにカンボジア)の政治研究も継続したい。コロナ禍を挟んで前後でどのような変化があったのか、可能ならばカンボジアなどの現地調査をおこないたい。また、メコン経済圏との関係で、中国南西部も調査研究の対象に含めることも考えている。 |
|   | 研究の<br>結果           | ① 吉本隆明の思想研究: このところ毎年のように、このテーマに関して一書に纏め公刊することを目標にしてきたが、これは今年度(2024年度)も残念ながら実現できなかった。2025年度中には、公刊の予定である。<br>② アジア地域における政治社会発展の研究: 私のアジア地域の研究の中心はカンボジアであり、現地調査を中心としている。2023年度に引き続き今年度も、私自身の体調不良があり実施できなかった。  |
|   | 研究の<br>考察・<br>反省    | ① 吉本隆明の思想研究: 先に述べたように、2025年中には『吉本隆明の体系的思想』のタイトルで公刊の予定となっている。目下、最後の詰めを行っているところである。<br>② アジア地域における政治社会発展の研究: 上記の事情で予定したカンボジア現地研究に入れなかったことが残念であった。コロナ禍を挟んで前後でどのような変化があったのかは、大きな研究主題である。退職後も、少しずつでも研究を進めていきたい。   |
| 研究発表<br>学会名<br>発表テーマ<br>年月日/場所<br><br>研究成果物<br>テーマ<br>誌名<br>巻・号<br>発行年月日<br>発行所・者 | なし                  |  |